



チャレンジサイクルロードレース A-E のスタート

シクリスムエコー No.138 2007年4・5月号



平成 19 年度事業計画 2
 (財) 日本自転車競技連盟 新役員の紹介 4
 会長就任のあいさつ 5
 平成 19・20 年度 専門委員会委員・評議員名簿 5
 平成 18 年度 全国高等学校選抜自転車競技大会 6
 日本新記録 7
 2007 ジュニア強化指定選手メンバー 7
 2007 年トラック世界自転車競技選手権大会 8
 第 32 回チャレンジサイクルロードレース大会 10
 MTB ジャパンシリーズ J 八幡浜 (UCI-3) 12
 シクロクロス強化指定選手 12
 登録者のアンチ・ドーピング検査規則に係る処分について 12



全日本実業団・群馬実業団カップ 13
 全日本学生ロードレース・飯山ラウンド 13
 第 8 回チャレンジ・ザ・オリンピック 14
 JCF 事務局 人事異動 14
 JCF 第 1 級公認審判員 (トラック・ロード) 14
 UCI 国際コミセール養成コースのお知らせ 14
 ACC トラックアジアカップ 2007 のお知らせ 15
 JCF 維持会員のお願い 16
 加盟団体事務局変更のお知らせ 16
 連盟の動き (3 月下旬～ 4 月下旬) 16



この広報誌は、「競輪公益資金」の補助を受けました。

<http://keirin.go.jp>
<http://ringring.keirin.go.jp>



平成19年度 事業計画

財団法人 日本自転車競技連盟

我が国における自転車競技界を統括し、代表する団体として、寄付行為に掲げる目的を達成するため、以下の諸事業を実施する。

I. 事業計画概要

【総務部】

管理費等連盟運営経費の厳しい状況に対処するため、財政部会意見書に基づき、本年度も自主財源の確保を最重要課題として、恒常的・安定的な収入の確保を目指し、協賛企業の確保、新規獲得を強力に推進するとともに、諸経費の支出について全面的な見直しを行い、一層の経費削減に努める。

また、連盟広報誌「シクリスムエコー」及びホームページの更なる内容充実に努め、自転車競技の魅力を広く一般に発信する。

財政問題ははじめ課題は多いが、評議員会、理事会及び常務理事会並びに各委員会を通して、適正・円滑な運営を図る。

【業務部】

大会の充実が競技の魅力を社会に向けて広く紹介できる機会であることを強く認識し、今まで以上に円滑に、選手にとってより良く、同時に見る側にとっても魅力的な大会運営を行っていく。さらに各種大会が併せ持つ諸問題を検討しさらに充実した大会作りを目指す。

また、選手の増加、競技の発展には低年齢層の拡大が課題であり、その対策の検討に取り組む。

【選手強化部】

昨年12月にフレデリック・マニエ氏をナショナルディレクターとして招聘し、来年の北京オリンピック及び5年後のロンドンオリンピックに向けて、新強化指定選手を中心にトラック、ロード、マウンテンバイク、BMXにおいては一層の選手強化を図る。

1. 北京オリンピックに向けて、トラック

強化指定選手の編成のためチャレンジ・ザ・オリンピックを実施する。

2. トラック、ロード、マウンテンバイク、BMXにおいては、2007～2008年シーズンにおける北京オリンピック出場枠の獲得のため、重点的に選手強化を図る。
3. ジュニアについては2006ジュニア世界選手権及びジュニア国際大会に派遣し、入賞できるよう選手強化を図る。
4. 次代を担う選手強化を図るため、自転車の基礎知識を見につけた有識指導者を育成する。

【国際事業推進室】

スポーツ団体の存在の意義を踏まえてその将来を考えると、国際化は重要なテーマである。国内外における国際的事業推進において地勢的な条件による障壁は動かし難いものとしても、通信手段の発達した現在においては言語における障壁を低くすることにより大いに推進を図ることができる。このために、外国語に精通した者を各方面で登用していくことと、諸文書を日本人と外国人が相互に理解できる形にすることなどが重要であろう。

また、日本の競技者が国際的に活躍するための基盤として、ランキングを含む国内諸制度を国際的制度和整合化し、競技者や審判、コーチなどの活動の支援体制を整備していくことも重要である。

上記のことを踏まえて、国際事業推進室は、本連盟諸事業の場において、人材の発掘/養成/登用、資料/文書の2ヶ国語（日本語・英語）化、国内外の情報の収集、対外（国内外）的な情報の蓄積および公開、競技成績に基づくランキング制度の整備、そしてこれらのための事務局内での情報の共有化および事務局整備を推進する。そして、これらの円滑な推進のため、関係者/関係団体との良好で緊密な協力関係を涵養すべく

活動する。

実施事業については以下のとおりである。

II. 実施事業

1. 国内競技大会関係事業

- ①全日本自転車競技選手権大会（トラック、ロード、個人TTロード、Jrロード、室内自転車、マウンテンバイク、シクロクロス、BMX）
- ②その他国内大会（全アマトラック、全アマロード、JOCジュニアオリンピック、全国都道府県対抗）

2. 国内での国際競技大会事業

- ①ジャパンカップロードレース大会
- ②ACCトラックアジアカップ大会

3. 国際競技大会関係事業

- ①世界選手権自転車競技大会（トラック、ロード、マウンテンバイク、BMX、室内自転車競技、シクロクロス、ジュニアトラック、ジュニアロード）選手派遣
- ②アジア自転車競技選手権大会（トラック、ロード、MTB）選手派遣
- ③ワールドカップ大会選手派遣
- ④国際グランプリケイリン選手派遣
- ⑤6日間レース選手派遣
- ⑥日韓対抗学生自転車競技大会選手派遣
- ⑦ACCトラックアジアカップ大会選手派遣
- ⑧国際会議への派遣

4. 加盟団体関係事業

(1) 都道府県連盟関連事業

- ①全国地域別道路競走大会（8地域）
- ②全国地域別トラックレース大会（8地域）
- ③全国都道府県別自転車競技選手権大会（47都道府県）

- (2)日本プロフェッショナルサイクリスト協会関連事業
 ①全日本プロフェッショナル自転車競技選手権大会
 ②全国地区別プロフェッショナル自転車競技選手権大会
 ③プロサイクリスト強化事業他
- (3)全国高等学校体育連盟自転車競技専門部関連事業
 ①全国高等学校選抜自転車競技大会(トラック、ロード)
 ②全国高等学校自転車競技合宿
- (4)日本学生自転車競技連盟関連事業
 ①全日本大学対抗選手権自転車競技大会
 ②全日本学生選手権自転車競技大会(トラック、ロード、チームロード)
- (5)全日本実業団自転車競技連盟関連事業
 ①全日本実業団対抗サイクルロードレース大会
 ②全日本実業団自転車競技選手権大会
 ③東西地域別実業団(トラック、ロード)大会
- ④全日本実業団サイクルロードレースin石川大会
5. アンチドーピングの推進事業
 全日本選手権大会等主要大会において、ドーピング検査を実施し、アンチドーピングを積極的に推進する。
6. 強化・普及事業
 (1)選手強化事業
 (2)全国自転車競技指導担当者研修会・審判講習会
 (3)自転車競技の普及・広報事業
 (4)ケイリン種目等指導普及事業
 (5)広報誌発行事業
 (6)チャレンジ・サイクル・ロードレース大会
7. 調査研究事業
 (1)国内競技大会に関する研究
 (2)国際競技における制度等に関する調査研究
 (3)選手強化等に関する調査研究
 (4)登録システムの整備
- Ⅲ. 共催事業の実施
 (1)ツアー・オブ・ジャパン(自転車月間推進協議会他)
 (2)ツール・ド・おきなわ(NPO法人ツール・ド・おきなわ協会他)
 (3)ツール・ド・北海道((財)ツール・ド・北海道協会)
 (4)ツール・ド・とうほく((財)河北文化事業団)
 (5)TOUR de 熊野(NPO法人SPORTS PRODUCE熊野)
 (6)シマノ鈴鹿国際ロードレース大会((株)シマノ)
 (7)平成19年度全国高等学校総合体育大会((財)全国高等学校体育連盟佐賀県他)
 (8)第62回国民体育大会自転車競技会(文部科学省、(財)日本体育協会、秋田県他)
 (9)日本スポーツマスターズ2007自転車競技((財)日本体育協会、滋賀県他)
 (10)第3回全国ジュニア自転車競技大会(四日市市サイクルスポーツフェスティバル実行委員会)

収支予算書総括表

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(単位:円)

科 目	一般会計	日本体育協会 補助事業特別会計	国際競技力 向上事業特別会計	オリンピック・パラリン 事業特別会計	日自振・公益補助 事業特別会計	スポーツ振興基金 事業特別会計	内部取引消去	合 計
I 事業活動収支の部								
1. 事業活動収入								
①基本財産運用収入	25,000	0	0	0	0	0		25,000
②特定資産運用収入	161,000	0	0	0	0	0		161,000
③会費収入	19,000,000	0	0	0	0	0		19,000,000
④事業収入	21,100,000	0	0	0	0	0		21,100,000
⑤補助金等収入	49,350,000	6,000,000	12,000,000	3,200,000	480,133,000	3,780,000		554,463,000
⑥負担金等収入	4,550,000	0	6,000,000	0	0	0		10,550,000
⑦寄付金収入	500,000	0	0	0	0	0		500,000
⑧雑収入	1,500,000	0	0	0	0	0		1,500,000
⑨他会計からの繰入金収入	0	0	0	0	3,034,000	1,260,000	△4,294,000	0
事業活動収入計	96,186,000	6,000,000	18,000,000	3,200,000	483,167,000	5,040,000	△4,294,000	607,299,000
2. 事業活動支出								
①事業費支出	24,600,000	6,001,000	18,000,000	3,200,000	483,167,000	5,040,000		540,008,000
②管理費支出	91,632,000	0	0	0	0	0		91,632,000
③他会計への繰入金支出	4,294,000	0	0	0	0	0	△4,294,000	0
事業活動支出計	120,526,000	6,001,000	18,000,000	3,200,000	483,167,000	5,040,000	△4,294,000	631,640,000
事業活動収支差額	△24,340,000	△1,000	0	0	0	0	0	△24,341,000
II 投資活動収支の部								
1. 特定資産取得支出	3,000,000	0	0	0	0	0		3,000,000
III 予備費支出	1,000,000	0	0	0	0	0		1,000,000
当期収支差額	△28,340,000	△1,000	0	0	0	0	0	△28,341,000
前期繰越収支差額	102,258,062	5,493,751	3,611,424	30,437,819	0	0	0	141,801,056
次期繰越収支差額	73,918,062	5,492,751	3,611,424	30,437,819	0	0	0	113,460,056

(財)日本自転車競技連盟 新役員の紹介



会長 岩橋 昭一 (65)
日本プロサイクリスト協会



副会長 鈴木 孝幸 (63)
日本プロサイクリスト協会(学経)



副会長 村田 統司 (67)
日本学生自転車競技連盟



常務理事 穴田 勝彦 (67)
日本プロサイクリスト協会



常務理事 市川 清義 (56)
日本プロサイクリスト協会(学経)



常務理事 岡田 行雄 (60)
鳥取県自転車競技連盟



常務理事 加藤 昭 (64)
全日本実業団自転車競技連盟



常務理事 藤本 清孝 (59)
兵庫県自転車競技連盟(学経)



理事 井関 康正 (66)
日本学生自転車競技連盟



理事 市川 孝雄 (67)
日本プロサイクリスト協会(学経)



理事 大島 研一 (61)
栃木県自転車競技連盟



理事 奥田 悦司 (58)
大阪府自転車競技連盟



理事 佐々木 正人 (56)
岩手県自転車競技連盟



理事 中西 泰三 (65)
徳島県自転車競技連盟



理事 成田 昇 (54)
日本プロサイクリスト協会



理事 松本 秀憲 (49)
熊本県自転車競技連盟



理事 山口 清孝 (59)
石川県自転車競技連盟



理事 山口 秀雄 (54)
全国高体連自転車競技部



理事 山崎 隆明 (49)
大分県自転車競技連盟



理事 大和 孝義 (57)
日本プロサイクリスト協会



監事 林 辰夫 (54)
大阪府自転車競技連盟



監事 松尾嘉之輔 (52)
日本プロサイクリスト協会



顧問 阿部 毅一郎 (67)



顧問 岡本 雄作 (72)



参与 亀田 博文 (76)



参与 鈴木 久雄 (73)

※ () 内は 4 月 1 日現在の年齢。順不同。

会長就任のあいさつ



財団法人 日本自転車競技連盟
会 長 岩 楯 昭 一

平成 19 年 3 月 27 日の本連盟評議員会および平成 19 年 4 月 9 日の第 1 回理事会において役員改選の結果、この度平成 19 年・20 年度（第七期）の会長に引き続き就任いたしました。

本連盟は、財団法人日本アマチュア自転車競技連盟と日本プロフェッショナル自転車競技連盟が一体となり平成 7 年に発足し、日本の自転車競技界を統括する団体として創立 12 年を迎え、発展に努めてまいりました。

本年よりナショナル・ディレクターとして元 UCI 強化訓練部長のフレデリック・マニエ氏を迎え、来年の北京オリンピックに向けさらに選手強化を図り、皆様のご期待に添えますよう頑張る所存です。

つきましては、関係各位皆様の自転車競技への一層のご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、会長就任の挨拶とさせていただきます。

平成 19・20 年度専門委員会委員

〔総務委員会〕

委員 長 藤本 清孝
委 員 井関 康正 奥田 悦司 久保田 茂

〔選手強化委員会〕

委員 長 穴田 勝彦
副委員長 大和 孝義
委 員 大島 研一 松本 秀憲 山口 秀雄

〔競技運営委員会〕

委員 長 岡田 行雄
委 員 佐々木正人 山口 清孝 山崎 隆明

〔広報委員会〕

委員 長 加藤 昭
委 員 中西 泰三 成田 昇

〔アンチドーピング委員会〕

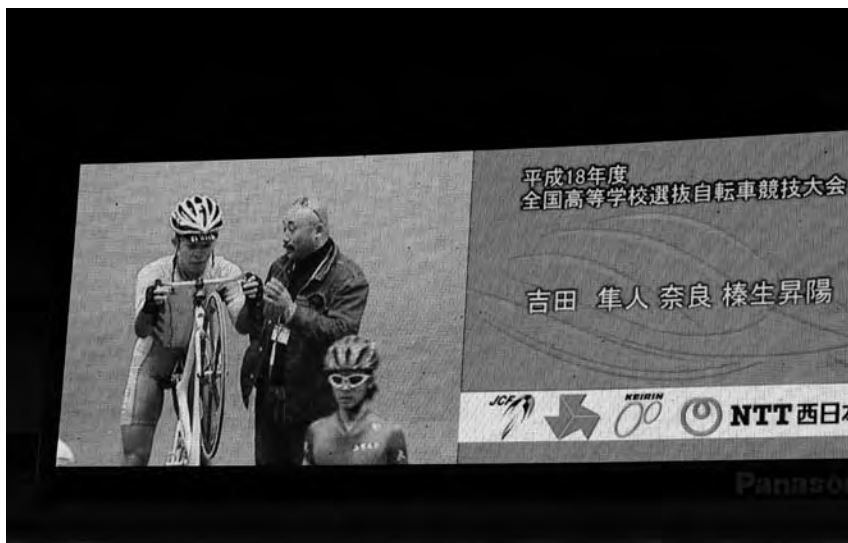
委員 長 市川 清義
委 員 市川 孝雄 坂本 陽一 新津谷真人

平成 19・20 年度（財）日本自転車競技連盟 評議員名簿

高村 敦（北海道）・久保 義春（青 森）・主濱 春蔵（岩 手）・星 進一（宮 城）・山田 義輝（秋 田）
小口 謙三（山 形）・鎌田 弘史（福 島）・大月 伸生（茨 城）・渡邊 知明（栃 木）・青木 勇（群 馬）
渡邊 淳（埼 玉）・廣瀬 来（千 葉）・横尾 明（東 京）・猪股 紀良（神奈川）・保坂 晴稔（山 梨）
中林 修（新 潟）・斎藤 博（長 野）・大橋 勲（富 山）・横長 勇（石 川）・竹沢 義忠（福 井）
松村 正之（静 岡）・酒井 忠雄（愛 知）・佐久間重光（三 重）・國枝 一成（岐 阜）・小西 良章（滋 賀）
熊本 彰廣（京 都）・程原 邦夫（大 阪）・藤谷 昇（奈 良）・上野 孝（和歌山）・岡田 慎二（鳥 取）
久野 志延（島 根）・近藤 忠彦（岡 山）・川手 一則（広 島）・吉次 浩二（山 口）・寒川 英樹（香 川）
久保 徹（徳 島）・二宮 一（愛 媛）・高山 順（福 岡）・佐々木昭彦（佐 賀）・永田 学（長 崎）
後藤 太（大 分）・中田 将次（熊 本）・下村 守（宮 崎）・黒川 剛（鹿 児 島）・仲松太郎（沖 縄）
川崎 寿男（実業団）・松倉 信裕（学 連）・中梶 秀則（高体連）・佐久間信司郎・富原 忠夫・樋口 信夫（以上 JPCA）

平成18年度 全国高等学校選抜自転車競技大会

北九州メディアドームほかで開催



平成18年度全国高等学校選抜自転車競技大会が、3月22日～25日の4日間、競輪発祥の地とされる北九州市小倉の「北九州メディアドーム」で開催された。高体連としては国内初めての室内自転車競技場を使用しての大会開催とあって、選手たちにとって素晴らしい大会となった。

今年は、1・2月と大変雪が少なくかつ気温も高い暖冬で、選手には十分な練習（乗り込み）ができ、シーズン前とされる選抜大会での記録更新も期待された。

3月22日夕方より開会式が行われ、その日の夜6時より女子2kmlP、男子3kmlP予選によって競技がスタートした。女子2kmlPでは、スタートリストの前半から3分を切るタイムが続々とでる中、最終組でスタートした熊本県千原台高校の柁原 彩がジュニア日本記録を0.264秒更新する、2分38秒913の好タイムを出してきた。競技開始早々記録の更新がなされたことで、大会関係者及び高体連自転車関係者は、今回の北九州メディアドームでの大会開催を心より喜ぶことができた。

その後24日までのトラック競技が予定どおり行われ、2kmlP決勝ではまたしても柁原が22日の予選で出した自己の記録をさらに0.222秒更新し、本大会2回目の記録更新となった。また女子500mTTでは、愛工大名電高校の近藤美子が38.762秒と大会記録には0.02秒届かなかったが、好タイムを出してきた。女子選手にとって選抜

大会は、高体連としての唯一の全国大会であり、特に熱の入る大会であることが記録によって伺えた。

一方男子は記録更新は望めなかったが、それぞれの種目の優勝候補選手が予想どおり優勝する結果となった。1kmTTは、桜丘高校の深谷知広が1分08秒063、3kmlPは、岐南工業高校の高橋翔太が3分39秒273のタイムでそれぞれ優勝。スプリントは作新学院高校の雨谷一樹、ケイリンは岐阜第一高校の近藤龍徳、ポイントレースは榛原昇陽高校の吉田隼人、スクラッチは千原台高校の小山真太郎が、それぞれの種目を制覇した。

3月25日最終日に、北九州市若松区竹並バイパス特設コースで、個人ロー

ドレースが男女とも行われた。前日まで大雨強風で天候が心配されたが、当日は雨が上がり風も弱まり、レースに最適の気候となった。

予定どおり男子162名が8時にスタートし、その後すぐに女子28名がスタートした。コースは極めてフラットなコースで、男子では時速40kmを超える高速ロードレースとなった。途中何人かの選手がアタックを試みたが、なかなか飛び出すことはできず勝負は最終のゴール勝負となった。そんな中でロードレースを制したのは、昨年の優勝者である榛原昇陽高校の吉田隼人で、ゴール300m前から先行しそのまま逃げ切りとなる力の差を見せつけた。前日のポイントレース優勝インタビューでの、優勝宣言を実現した結果となった。また、女子では作新学院高校の針谷千紗子がゴール勝負を制した。

以上のように4日間にわたる大会は幕を閉じたが、本大会の見どころはやはり、北九州メディアドーム（室内競技場）の施設の素晴らしさが目を引いたことだ。競技場内正面にはメディアドームらしくオーロラビジョン、そして選手ピットもヨーロッパのトラックレースなみにアリーナ内の設置等、北九州メディアドームだからこぞできた大会であったように思われます。

（中樞 秀則）



【競技結果】

平成18年度全国高等学校選抜自転車競技大会
(2007/3/22-25 福岡・北九州)

スプリント

- 1 雨谷 一樹 栃木 作新学院高校
- 2 田口 泰生 岐阜 岐阜第一高校
- 3 須藤 哲也 千葉 京葉工業高校
- 4 加藤 正法 愛知 桜丘高校
- 5 古庄 豊全 熊本 千原台高校
- 6 須藤 悟 千葉 千葉経済大附属高校

タイム

- 1 近藤 龍徳 岐阜 岐阜第一高校
- 2 沢木 太郎 千葉 千葉経済大附属高校
- 3 野口 大誠 熊本 九州学院高校
- 4 若松 孝之 三重 朝明高校
- 5 長沼 謙太 東京 昭和一学園高校
- 6 會澤 龍 宮城 仙台商業高校

1kmタイムトライアル

- 1 深谷 知広 愛知 桜丘高校 1:08.063
- 2 利根 正明 大分 別府商業高 1:08.989
- 3 長島 大介 栃木 作新学院高 1:09.516
- 4 山下 一輝 山口 誠英高校 1:09.953
- 5 魚屋 周成 大分 日出暘谷高 1:10.141
- 6 田中 陽平 熊本 千原台高校 1:10.542

3km個人追抜競走

- 1 高橋 翔太 岐阜 岐南工業高 3:39.273
- 2 入部正太郎 奈良 榛生昇陽高 3:40.420
- 3 相笠 翔太 福島 白河実業高 3:41.515
- 4 中田 匠 岩手 紫波総合高 3:44.832
- 5 坂本 健介 青森 八戸工業高 3:49.032
- 6 西田 大志 福岡 祐誠高校 3:49.447

スクラッチ (8km)

- 1 小山真太郎 熊本 千原台高校
- 2 野口 正則 奈良 榛生昇陽高校
- 3 森 啓 岐阜 岐阜第一高校
- 4 上田 隼 岐阜 岐南工業高校
- 5 草場 宏明 埼玉 小松原高校
- 6 豊住 大輔 鹿児島 鹿児島実業高校

ポイントレース (24km)

- | | |
|-------------------|------|
| 1 吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高校 | 25 p |
| 2 野中 竜馬 広島 国際学院高校 | 13 p |
| 3 加藤 雄介 宮城 東北高校 | 11 p |
| 4 竹村 勇祐 秋田 大曲農業高校 | 11 p |
| 5 高橋 昇平 埼玉 大宮工業高校 | 8 p |
| 6 山内 康平 岐阜 岐南工業高校 | 8 p |

個人ロードレース (70km)

- | | |
|--------------------|---------|
| 1 吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高 | 1:40:18 |
| 2 柿澤 大貴 長野 岡谷工業高 | 1:40:19 |
| 3 高橋 匠 千葉 京葉工業高 | 1:40:19 |
| 4 石田 輝 静岡 興誠高校 | 1:40:19 |
| 5 加藤 雄介 宮城 東北高校 | 1:40:20 |
| 6 吉岡 恭兵 大分 日出暘谷高 | 1:40:20 |
| 7 湊 淳二 兵庫 兵庫工業高 | 1:40:20 |
| 8 魚屋 周成 大分 日出暘谷高 | 1:40:20 |
| 9 堀内 俊介 神奈川 横浜高校 | 1:40:20 |
| 10 新納 大輝 鹿児島 鹿児島実業 | 1:40:20 |

総合成績

- | | |
|-------------|-----|
| 1 榛生昇陽高校 奈良 | 32点 |
| 2 岐阜第一高校 岐阜 | 22点 |
| 3 岐南工業高校 岐阜 | 17点 |

女子500mタイムトライアル

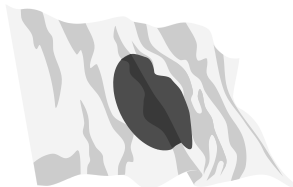
- 1 近藤 美子 愛知 愛工大名電高 38.762
- 2 柁原 彩 熊本 千原台高校 39.459
- 3 前田佳代乃 兵庫 西宮高校 39.470
- 4 松本 世良 鳥取 倉吉東高校 39.935
- 5 田中 まい 千葉 千葉経済大附 40.284
- 6 針谷千紗子 栃木 作新学院高校 40.568

女子2km個人追抜競走

- 1 柁原 彩 熊本 千原台高校 2:38.691
- 2 近藤 美子 愛知 愛工大名電 2:47.339
- 3 針谷千紗子 栃木 作新学院高 2:47.327
- 4 田中 まい 千葉 千葉経済附 2:48.760
- 5 明珍 裕子 鹿児島 鹿児島実業 2:50.424
- 6 大崎 詩穂 青森 八戸工業高 2:51.694

女子個人ロードレース (42km)

- 1 針谷千紗子 栃木 作新学院高 1:15:01
- 2 近藤 美子 愛知 愛工大名電 1:15:01
- 3 松本 世良 鳥取 倉吉東高校 1:15:04
- 4 山平 茜 鳥取 倉吉西高校 1:15:04
- 5 廣本 茜梨 大分 別府商業高 1:15:04
- 6 柁原 彩 熊本 千原台高校 1:15:05
- 7 上原 彩葉 大分 別府商業高 1:15:06
- 8 石井 愛 京都 花園高校 1:15:07
- 9 内田菜穂子 大阪 関西大倉高 1:15:07
- 10 明珍 裕子 鹿児島 鹿児島実業 1:15:07



日本新記録



■スタンディングスタート・2km

女子ジュニア 2分38秒691 柁原 彩 (熊本・千原台高校)

2007/3/23 福岡・北九州メディアドーム

2007 ジュニア強化指定選手メンバー

<男子トラック短・中長距離>

- 長島 大介 (栃木・作新学院高校)
- 山下 一輝 (山口・誠英高校)
- 磯田 旭 (栃木・作新学院高校)
- 深谷 知広 (愛知・桜丘高校)
- 相笠 翔太 (福島・白河実業高校)
- 雨谷 一樹 (栃木・作新学院高校)
- 利根 正明 (大分・別府商業高校)
- 佐々木 海 (宮城・仙台商業高校)
- 高橋 翔太 (岐阜・岐南工業高校)
- 柿澤 大貴 (長野・岡谷工業高校)

<男子ロード>

- 吉田 隼人 (奈良・榛生昇陽高校)
- 中田 匠 (岩手・紫波総合高校)
- 入部正太郎 (奈良・榛生昇陽高校)

- 本馬 陵 (福島・平工業高校)
- 堀内 俊介 (神奈川・横浜高校)
- 野中 竜馬 (広島・広島国際高校)
- 窪木 一茂 (福島・学法石川高校)
- 嵐田 義明 (埼玉・チームプリヂストンアンカー)
- 清水 峻 (大分・日出暘谷高校)
- 青山 裕矢 (香川・石田高校)

<女子>

- 近藤 美子 (愛知・愛知工業大学名電高校)
- 柁原 彩 (熊本・千原台高校)
- 石川菜々子 (香川・笠田高校)
- 針谷千紗子 (栃木・作新学院高校)
- 田中 まい (千葉・千葉経済大学附属高校)
- 明珍 裕子 (鹿児島・鹿児島実業高校)

2007年トラック世界自転車競技選手権大会

チームスプリント日本チーム7位



3月29日から4月1日までスペイン・マジョルカ島のパルマ自転車競技場で、36の国と地域から男子198名女子84名の282名が参加した。日本からは、伏見俊昭(JPCA 福島)・井上昌己(JPCA 長崎)・中川誠一郎(JPCA 熊本)・成田和也(JPCA 福島)・渡邊一成(JPCA 福島)・永井清史(JPCA 岐阜)・北津留翼(JPCA 福岡)・飯島誠(JPCA・アンカー)・盛 一大(愛知・愛三工業)の9名が参加した。

【3月28日 大会前日】

明日から大会本番を控えて、各国選手の緊張感が高まって来ているのが感じられるようになり、11時から13時まで各選手の練習メニューをこなしながら調整に入る。夕食後に行ったミーティングでは、大会に臨むにあたってマニエ監督がいまだかつてない緻密な調整スケジュールを作成した。選手達は緊張感と重なり少しは戸惑いも見せていたが、マニエ監督も選手の様子を察し、選手個々に声を掛け緊張を解きほくしている姿は流石である。

【3月29日 大会初日】

最初の種目はチームスプリントで、マニエ監督がエントリー締め切り時間までメンバー編成に悩んだ種目である。メンバーは成田・渡邊・井上で決まり、永井をリザーブに置くことになった。

競技開始は19時半過ぎのため、昼食後15時15分にホテルを出発、16時から最後の調整に入る。オープニングセレモニーが5時半からあるため練習時間が余り無く、しかもセレモニー終

了後30分余りでレースが開始となると、セレモニーの興奮と観衆の雑音のなかで競技に集中して行かなくてはならない事は凄く困難であったと思う。

日本チームは3組目で相手はウクライナである。対戦相手はどこであろうと大会初日の競技は緊張を隠せないようだ。選手の顔色がみるみるうちに変わって行くのが分かる。いよいよスタート、世界選前の強化合宿においても抜群のスタートを維持していた成田が、スタートから2歩目で若干スリップ。最後までスリップが響いたか1周回18秒195で2番手の渡邊につなぐも、思ったよりはスピードに乗せる事が出来ず。3番手の井上も懸命にペダルを踏むも結果45秒451で7位に終わる。結果的には順位は良くなかったが、ダービー終了後中3日での長時間の移動、器材荷物の1日遅れでの到着等を踏まえれば、選手には良く頑張ったと称えてあげたい。

今後の課題としては、1週のラップタイムの向上も必要だが、2・3週のラップタイムを上位の国と比較すると各周0.2～0.4秒の開きがあるので、このタイム差をなんとか縮めていくのも今後の強化課題の1つである。

【3月30日 大会2日目】

本日の競技種目は、伏見と成田が出場するケイリン、盛が出場するスクラッチである。まずはケイリン予選、成田は2組目EDGAR(GER)と地元ESCUREDO(ESP)が同じ組。伏見は4組目で優勝候補HOY(GBR)と

MULDER(NED)との対戦である。各選手にマニエ監督から作戦を伝えられ、予選がスタート。成田は周回中作戦通りEDGARマークで行くも、スピードが上がった所でマークを外してしまい、残り1周からは内々のコース取りをしたが3着でゴール。伏見は積極的に前々で勝負する作戦である。スタート後の位置取りでは後方に位置し、残り2周半で踏み込んだ所で、中国のTANG(CHN)が前車と接触し中国が大きく離れてしまい、伏見もその影響で先行することが出来ず、力を出し切れず7着でゴール。

その後の敗者復活戦では伏見・成田が同組になってしまった。1着上がりだけに日本チームとしては、きつい組み合わせとなった。レースは、伏見が先行態勢に入り成田は伏見との車間を十分に保ちながら1・2着でゴールし伏見が2回戦に進出した。

続いて2回戦。伏見は2組目、スタート後残り3周の所でBOURGAIN(FRA)がダッシュし、次々に各選手が仕掛けたが伏見はその流れに乗れず6番手に置かれ、そのままゴールに終わった。

ケイリン7-12位決定戦。本日4レース目で疲れが溜まっていたのか伏見らしい走りが出来ず4着でゴールし、最終順位は10位の成績で今回の世界選を終了した。

続いて盛が出場するスクラッチ。スクラッチは予選2組で、上位11名の選手が決勝に進出できる。予選1組の盛は難なく予選2位で決勝へ。決勝戦は予選の倍の距離15kmで行われた。さすが世界選の決勝ともなると、かなりのハイスピードの周回が重ねられ位置取りも険しくなり、盛も世界の強豪選手を相手に果敢に攻めていた。終盤に入り残り10周を切った所でWONG Kam-PO(HKG)がスパート。半周以上の差が開き、他の選手もWONGを懸命に追うがなかなか思うように差が縮まらない。残り5周近くで盛が痛恨の落車でDNFとなり、先頭のWONGはそのまま逃げ切り優勝！エリート男子としては1987年以降獲得してなかった、アジア地区選手の世界チャンピオンになったWONG Kam-Poに敬意を表したい。

〔3月31日 大会3日目〕

本日の競技は、渡邊・永井・北津留が出場するスプリントと、飯島が出場するポイントレースが行われた。朝一番の競技でスプリントの予選TTが行われ、日本チームは、北津留・渡邊・永井の順番で出走し、北津留(10.482秒)23位、渡邊(10.541秒)28位、永井(10.634秒)30位の結果に終わり、上位24名の予選を通過したのは、北津留1人になってしまった。他の2人も練習では結果以上のタイムを出しており、予選を通過しなかった事にかなり落ち込んだ様子だった。

男子スプリント1/16決勝。北津留の相手は王者BOS Theo(NED)で、相手に主導権を取られたらまず勝てる相手ではない。北津留もその点は理解していたのが、自ら主導権を握り果敢に逃げるも王者には通用せずゴール!しかし、北津留のタイムが予選通過ギリギリのタイムであるように、これからの練習においても常時に10秒4以内を出すような脚力強化を計っていかねばならない。

午前最後のレースは、飯島が出場するポイントレース予選。本人今年に入って初めての実戦のポイントレースの為に若干動きが悪かったが、何とか予選を通過し午後の決勝に進む事が出来た。決勝戦では2回目のポイントで5ポイント獲得し良い流れかと思われたが、レース前半にラップされ、なお且つ速い周回ペースに付いていくのが苦しそうに見えてきた。それでも中盤・後半にポイントを獲得したもののラップされたポイントを挽回出来る

までにはいけなく、結果-8ポイントの14位に終わった。この悔しさと世界との力の差は、誰でもなく走った本人が一番感じていることだと思う。

〔4月1日 大会4日目〕

いよいよ最終日の出場種目は1KmTTに出場する中川。26日現地入りしてから体調が優れず出場も危ぶまれたが、前日中川本人からマニエ監督に出場を直訴し、本人も気合を入れ直してレースに臨んだ。本人いわく苦手なスタート。しかし合宿等で見た事もない抜群のスタートで中盤までは参加選手中4位のタイムで通過するが、2日前まで練習も出来ずにいた者に対しては過酷な残り500mとなり、最後まで力走し1分03秒937秒の自己ベストを出すも11位の結果に終わり、2007年日本チームのトラック世界選が終了した。

今大会を振り返って、選手達の大会までの日程が余りにも過酷であり、選手たちの調整に対してかなりの不利があったと思われる大会であった。しかし選手たちは苦しさを顔には出さず、言葉には出さずにいたことは、流石選抜抜かれた選手達だと感動した。また指揮官としてのマニエ監督を注目して見ていたが、常に選手に向き合い、同じ目線で一つひとつ選手にわかるように、また選手がわかるまで話し合っている姿に今後の日本チームの進化・発展を感じ取ることが出来た大会であった。



〔競技結果〕

2007年トラック世界自転車競技選手権大会
(2007/3/29-4/1 スパイン・マジヨカ島パルム)

男子スプリント			
1	BOS Theo	NED	
2	BAUGE Gregory	FRA	
3	BOURGAIN Mickael	FRA	
23	北津留 翼	JPN	1/16F 敗退
28	渡邊 一成	JPN	予選敗退
30	永井 清史	JPN	予選敗退
男子ケイリン			
1	HOY Chris	GBR	
2	BOS Theo	NED	
3	EDGAR Ross	GBR	
10	伏見 俊昭	JPN	
	成田 和也	JPN	1回戦敗退
男子1kmタイムトライアル			
1	HOY Chris	GBR	1:00.999
2	PERVIS Francois	FRA	1:01.838
3	STAFF Jamie	GBR	1:02.074
11	中川誠一郎	JPN	1:03.937
男子チームスプリント			
1	フランス		43.830
2	イタリ		43.832
3	ドイツ		44.240
7	日本 成田・渡邊・井上		45.451
男子スクラッチ			
1	WONG Kam Po	HKG	
2	STROETINGA Wim	NED	
3	RATAJCZYK Rafal	POL	
盛 一大	JPN		DNF
男子ポイントレース (40Km)			
1	LLANERAS ROSELLLO Joan	ESP	76p
2	KEISSE Iljo	BEL	55p
3	IGNATIEV Mikhail	RUS	52p
14	飯島 誠	JPN	-8p

日本航空

空で逢いましょう。

Dream Skyward.

ご予約・お問い合わせ
www.jal.co.jp
 国内線 ☎ 0120-25-5971
(営業時間 6:30~22:00/年中無休)
 国際線 ☎ 0120-25-5931
(営業時間 8:00~21:00/年中無休)

第32回チャレンジサイクルロードレース大会

BS田代がA-Eのチャンピオンに!



A-E 優勝の田代



A-F 優勝の豊岡 (中央)



A-U のゴールスプリントを制した山下

4月1日(日)、春恒例のチャレンジサイクルロードレースが第32回を迎え、静岡県の日本サイクルスポーツセンター 5kmコースで開催された。

雨こそ降らなかったものの強風の中、午前9時、A-U・A-J・A-Mの3クラスから大会はスタートした。

まず、最初にA-Mの小泉が単独でゴール。次のA-Uでは、ミヤタの山下がゴールスプリントを制した。そしてA-Jで常に2人でランデブーしていた榛生昇陽高校コンビは吉田が勝利を手中に収めた。

午前のA部門が終了し、午後2時のA-E・A-Fのスタートまでは、B部門が年齢別10クラスにおいて競われた。

午後のA-Fにおいては、西日本チャレンジに続き、豊岡が単独でフィニッシュ。また頂点のA-E部門では、1週間前同じ場所で開催された、東京都社会人対抗大会でも優勝したBSの田代が見事優勝した。

なお、A-F出走者中のジュニア部門(A-F-J)では明珍が優勝した。

【競技結果】

第32回チャレンジサイクルロードレース大会
(2007/4/1 静岡・日本CSC)

A-E (60km)

- 1 田代 恭崇 JPCA フリヂェストン 1:38:37.19
- 2 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 1:39:21.59
- 3 鈴木 真理 JPCA ミヤタマル 1:39:21.68



- 4 三瀬 光誠 山形 フリヂェストン 1:39:22.23
- 5 増田 成幸 千葉 日本大学 1:39:30.13
- 6 細川 倫央 東京 1:39:42.80
- 7 阿部 良之 JPCA シマルシング 1:40:00.85
- 8 真鍋 和幸 香川 ニッポコルナゴ 1:40:01.18
- 9 飯野 嘉則 東京 1:40:13.86
- 10 日置 大介 兵庫 マトリックス 1:40:24.26

A-U (40km)

- 1 山下 貴宏 兵庫 MIYATA 1:09:08.72
- 2 初山 翔 神奈川 1:09:08.83
- 3 福田 真平 神奈川 1:09:08.98
- 4 森山 大知 神奈川 1:09:09.23
- 5 片山 和正 岡山 鹿屋体大 1:09:09.60



A-M 独走ゴールの小泉

- 6 秋元佑一朗 神奈川 1:09:10.18
- 7 松田 究 北海道 早稲田大 1:09:10.35
- 8 古山 智之 岐阜 京都産大 1:09:11.02
- 9 平塚 吉光 静岡 ミタワハ和 1:09:14.04
- 10 鈴木 譲 東京 ミヤ 1:09:14.07

A-J (40km)

- 1 吉田 隼人 奈良 榛生昇陽 1:11:41.68
- 2 入部正太郎 奈良 榛生昇陽 1:11:41.93
- 3 堀内 俊介 神奈川 横浜高校 1:12:36.35
- 4 野口 正則 奈良 榛生昇陽 1:12:36.67
- 5 矢吹 一貴 福島 学法石川 1:12:36.77
- 6 小巻 和仁 埼玉 川越工業 1:12:36.90
- 7 高田 義明 埼玉 フリヂャストン 1:12:37.03
- 8 中山 卓士 埼玉 1:12:37.15
- 9 石田 輝 静岡 興誠高校 1:12:37.22
- 10 新井 翔太 埼玉 川越工業 1:12:37.56

A-M (35km)

- 1 小泉 操 埼玉 シロカ-テン 1:04:01.86
- 2 浜頭 恭 東京 伊藤忠テクノ 1:04:26.69
- 3 松井 久 大阪 シノ 1:04:29.25
- 4 山本 誠一 東京 山鉄リッター 1:04:29.33
- 5 屋部 佳伸 静岡 フィッツ 1:04:46.16
- 6 小久保俊介 東京 小野薬品 1:05:08.49
- 7 漆戸 寛 東京 小田急電 1:06:32.63
- 8 追川 雅弘 神奈川 SRC 1:07:06.92
- 9 須藤 大輔 千葉 新家工業 1:07:36.44
- 10 佐藤 成彦 千葉 Sプロジェクト 1:07:48.74

A-F (20km)

- 1 豊岡 英子 大阪 39:46.75
- 2 西 加南子 千葉 センチュリー&co 40:12.82
- 3 和田見里美 鳥取 中京大学 40:51.09
- 4 齋藤 磨実 神奈川 40:51.33
- 5 山口 亮子 愛知 ロイヤルホーツ 40:55.61
- 6 智野 真央 東京 42:18.14
- 7 栗原 瞳 埼玉 順天堂大学 43:05.32
- 8 明珍 裕子 鹿児島 鹿児島実業 43:09.36
- 9 小淵 千恵 群馬 順天堂大学 43:34.71
- 10 井上 玲美 東京 法政大学 43:34.94

A-F-J (20km)

- 1 明珍 裕子 鹿児島 鹿児島実業 43:09.36
- 2 近藤 美子 愛知 愛工大名電 46:40.55
- 3 岩田 知夏 兵庫 大阪女学中 48:09.33



A-J の1位吉田(右)と2位入部

未永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様へ、当社製品と

未永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱い説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

SHIMANO

www.shimano.com

XBC001-A

MTBジャパンシリーズ開幕

2007 MTB J 八幡浜インターナショナル大会



北京オリンピックのMTBクロスカン トリー競技出場枠を獲得するためには、8月レバノンで開催されるアジア大陸マウンテンバイク選手権大会で優勝しなくてはならない。

この大会は、男子、女子共各4名のナショナルチームで挑むことになる。まずは、この4名のナショナルチームに選抜されなくてはならない。UCIの国際大会でもあるJ八幡浜大会は2007年オープン戦としてそして選考大会として熱戦の火ぶたは切られた。

前日のコースインスペクションでは、完全なドライであったが、大会当日は、全日雨となりマットとなる。ドライブではグリップする木の根、岩もテクニカルな障害物と変化する。トップ選手達はライバルの得意、不得手とする手の内を知り尽くした上での戦いとなる。

女子エリートは片山 (TREK) がファーストラップから他を大きく引き離し独走体勢でフィニッシュ。男子エリートは、コースの至る所で雨水が流れを作る悪コンディションの中、野口 (TREK)、辻浦 (BS) の2名がスタートより飛び出す。先頭が入れ替わるも、フィニッシュ手前1km地点までもつれ込むが、コースライン取りを見計って辻浦がダッシュをかける。10mの差がつけば、マットのシングルコースでは勝負が決まる。フィニッシュ300m手前で勝利を再確認した辻浦がウイナーを獲得する。

ナショナルチームの選考大会はJ-1箱館大会、J-1仙台泉ヶ岳大会、J-1富士見大会とつづく。まだ大きな可能性とチャンス、勝利を求めて熱い戦いはつづく。
(山本 康雄)

【競技結果】

MTBジャパンシリーズ J八幡浜XCO#1 (2007/4/21-22 愛媛・八幡浜)

男子 XCO (33km)

1	辻浦 圭一	長野	Anchor	2:00:03.16
2	野口 忍	京都	TREK	2:00:22.96
3	小笠原崇裕	長野		2:01:25.47
4	山本 和弘	東京	Cannondale	2:03:29.94
5	門田 基志	愛媛	GIANT	2:04:17.07
6	竹谷 賢二	千葉	Specialized	2:04:30.67
7	竹之内 悠	京都	TREK	2:04:49.17
8	小野寺 健	京都	SUBARU	2:05:59.21
9	鈴木 雷太	長野	Anchor	2:07:16.98
10	白石 真悟	大阪	ShimanoD	2:07:35.62

女子 XCO (26.4km)

1	片山 梨絵	神奈川	TREK	1:56:41.41
2	矢沢みつみ	山梨	SY-Nak	1:59:27.32
3	中込由香里	長野	SY-Nak	2:02:00.18
4	田近 郁美	岐阜	GOD HILL	2:08:03.23
5	豊岡 英子	大阪		2:12:33.44
6	深井 薫	大阪	BMC	2:14:17.23
7	酒井 真清	大阪	Testach	2:16:18.00
8	山本 佳苗	岡山	BMC	2:16:50.20
9	光田 真基	三重	KHS J	2:19:14.50
10	出町 有希	鳥取		-1Lap

シクロクロス強化指定選手

強化指定選手 A: 2007 シクロクロス世界選完走選手

<エリート男子> 辻浦 圭一 (奈良)

<エリート女子> 豊岡 英子 (大阪)・荻島 美香 (埼玉)・志村みち子 (埼玉)・田近 郁美 (岐阜)

強化指定選手 B: 2007 シクロクロス世界選 (-1lap) 着位選手

<エリート男子> 小坂 正則 (長野)・丸山 厚 (長野)

<アンダー23> 竹之内 悠 (京都)・藤岡 徹也 (兵庫)・伊澤 優大 (滋賀)

強化指定選手 C: 2007 シクロクロス世界選 DNF及びUCI ランキング者

<エリート男子> 三船 雅彦 (JPCA)・中間森太郎 (埼玉)・飯塚 隆文 (長野)・堂城 賢 (北海道)

<エリート女子> 酒井 真清 (大阪)・池田 桂子 (大阪)・狩俣けい子 (大阪)・森 涼子 (京都)

<アンダー23> 大塚 航 (京都)・松井 響 (京都)

ジュニア強化対象者: 今後活躍が期待され可能性あるジュニア選手

中山 和也 (長野)・柿澤 大貴 (長野)・合田 啓祐 (香川)

登録者のアンチ・ドーピング検査規則に係る処分について

本連盟資格審査委員会は、競技者資格に関し、UCIおよびJCF規則に基づき検討した結果、下記の処分を科すことを決定いたしましたので、通知いたします。

対象者氏名: 宮本 武彦

根拠となる事実:

- 2006年12月17日に大阪府コスモスクエア国際交流センターで開催された「第36回全日本室内自転車競技選手権大会」時に実施されたアンチドーピング検査において、サイクルサッカーの優勝者である宮本武彦は検査対象となった。
- 当日の検査は、UCI/JCF規則に正しく従って実施された。
- 採取された検体から、WADA公認検査機関により、禁止物質であるフィナステリドが検出された。
- 陽性報告以降の審査委員会に至る手続きはUCI/JCF規則に正しく従って行われた。

裁定: 2007年3月9日より9月8日まで6ヶ月間の資格停止

考慮された事項:

- 本人は競技後検査時に、服用している薬物としてフィナステリドの商品名である『プロペシア』を検査用紙に正直に記入している。
- 本人はフィナステリドの薬効が競技力を高めるものではないので、禁止薬物であるとは認識していなかった。
- 本人は世界選手権大会をはじめとして国際大会の経験が豊富であるが、それら大会での検査を見聞したことがなく、油断があった。
- 背景として、本連盟におけるアンチドーピングに関する啓蒙活動が十分ではなかったといえる。
- 大会時の広報活動もさらに充実させる余地があったといえる。
- この件について本人は大いに反省し、今後十分注意して規則を順守していくことを約束している。

以上

第1回全日本実業団・群馬実業団カップ

＜実業団Jツアー2007、Jグランプリが開幕＞

全日本実業団自転車競技連盟が昨年からスタートした「サイクルロードレース ジャパンツアー2007」(略称：Jツアー)と今年度新たに実業団(BR-2、BR-3)対象のクラブ・ナンバーワンを決める「実業団チームグランプリ2007」(略称：Jグランプリ)がスタートした。

第1戦となる「実業団カップ」は、4月28日土曜日に群馬県・サイクルスポーツセンターで行われ、2006年Jツアーシーズンチャンピオンの鈴木真理と同じチームの柿沼章(栃木・チームミヤタ)が優勝した。Jツアー2007対象レースは全14戦、Jグランプリは全20戦が予定されている。



最終回一人抜け出した柿沼が優勝

【競技結果】

第1回全日本実業団・群馬実業団カップ
(2007/4/28 群馬・群馬CSC)

BR-1 (108km)

1	柿沼 章	栃木 チームミヤタ	2:43:44
2	廣瀬 敏	石川 愛三工業	2:43:50
3	大内 薫	JPCA シルレーシング	2:43:52
4	鈴木 譲	東京 チームミヤタ	2:43:52
5	小野寺 健	北海道 Marco Polo	2:43:57
6	飯野 嘉則	東京 ハールズミ	2:44:01
7	山本 雅道	JPCA シルレーシング	2:44:37
8	増田 成幸	千葉 チームミヤタ	2:44:38
9	福田 真平	神奈川 チームミヤタ	2:44:47
10	山下 貴宏	兵庫 チームミヤタ	2:44:49

女子 (54km)

1	山島 由香	大阪 サイクルアースあさひ	1:36:04
2	山口 亮子	愛知 masahiko	1:37:26
3	智野 真央	東京 キーンCCD	1:43:26

全日本学生ロードレース・飯山ラウンド

全日本学生ロードレース・シリーズ戦開幕



日本学生自転車競技連盟は、これまでの方針を更に発展させ今年度から「全日本学生ロードレース・シリーズ戦」を行うことを発表した。2007年全日本学生ロードレース・シリーズの開幕戦となる第1戦「菜の花飯山ラウンド」が4月21日(土)、22日(日)に長野県飯山市の、満開の桜に囲まれた飯山運動公園内、針湖池周回コース(1周1.15km)で行われた。実力別に2カテゴリ(クラス1+2、クラス3)に分かれて

実施され、1日目はロードレース方式のクリテリウムA、2日目は個人タイムトライアル(1.3km)とポイントレース方式のクリテリウムBの3レースが行われた。クリテリウムの周回賞にキノコ、優勝者にお米など、地元協賛各社より嬉しい特産品も贈られた。今大会の総合成績では池田 諒(明治大学)が優勝。またシリーズ第1戦終了後の成績は辻本翔太(順天堂大学)が14ポイントでリーダーズ・ジャージを

獲得した。

2007年全日本学生ロードレース・シリーズ戦は全12戦が予定されている。また、学生選手だけではなく、広く一般登録競技者も参加枠を設けるなど、地域における自転車競技の振興にも一役を担う大会となりそうだ。

【競技結果】

全日本学生ロードレース第1戦
(2007/4/21-22 長野・飯山)

クリテリウムA (4/21)(110分+5周)

1	池田 諒	群馬 明治大学
2	辻本 翔太	千葉 順天堂大学
3	渡辺耕三郎	神奈川 中央大学

クリテリウムB (4/22)(110分+5周)

1	渡辺 将大	群馬 中央大学
2	辻本 翔太	千葉 順天堂大学
3	笠原 慶輔	茨城 明治大学

個人ロード・タイムトライアル (4/22)(1.3km)

1	市山 研	神奈川 明治大学	1:31.260
2	池田 諒	群馬 明治大学	1:33.450
3	渡辺 将大	群馬 中央大学	1:33.500

第1戦 総合成績

1	池田 諒	群馬 明治大学	10点
2	辻本 翔太	千葉 順天堂大学	11点
3	渡辺耕三郎	神奈川 中央大学	20点

第8回チャレンジ・ザ・オリンピック

基準タイムを17名が更新!

2008年の北京オリンピックに向けて、強化指定選手の選考を行なう「第8回チャレンジ・ザ・オリンピック」が4月28日(土)・29日(日)の両日、静岡県伊豆市の日本サイクルスポーツセンターにある、日本唯一の250mバンクで開催された。



初日は春の嵐と言ってもおかしくない強風で、更に午後には降雨となってしまった。また翌2日はうって変わって晴天となり順調に競技が進められた。今回はアテネ五輪チームスプリント銀メダリストの長塚智広・伏見俊昭・井上昌己の3選手を含め男子92名、女子22名の計114名が参加し、各種目基準タイム更新者も17名と昨年と比べてもハイレベルな争いとなった。なお、新たな強化指定選手は本誌次号およびJCF公式ウェブサイトでお伝えする予定。

【競技結果】

第8回チャレンジ・ザ・オリンピック
(2007/4/28-29 静岡・日本CSC250m)

男子200mフライングタイムトライアル

1	中川誠一郎	JPCA JPCU熊本	10.303
2	北津留翼	JPCA JPCU福岡	10.431
3	伏見俊昭	JPCA JPCU福島	10.571
4	渡邊一成	JPCA JPCU福島	10.577
5	永井清史	JPCA JPCU岐阜	10.622
6	金子貴志	JPCA JPCU愛知	10.663

男子250mタイムトライアル

1	長塚智広	JPCA JPCU茨城	18.097
2	成田和也	JPCA JPCU福島	18.165
3	渡邊一成	JPCA JPCU福島	18.312
4	金子貴志	JPCA JPCU愛知	18.366
5	伏見俊昭	JPCA JPCU福島	18.455
6	北津留翼	JPCA JPCU福岡	18.488

男子1kmタイムトライアル

1	大森慶一	JPCA JPCU北海道	1:04.718
2	及川裕奨	JPCA JPCU岩手	1:05.003
3	田中晴基	JPCA JPCU千葉	1:05.321
4	稲垣裕之	JPCA JPCU京都	1:05.371
5	中川誠一郎	JPCA JPCU熊本	1:05.532
6	新田祐大	JPCA JPCU福島	1:05.668

ジュニア男子3kmタイムトライアル

1	鳶田義明	埼玉ブリヂストンアカ	3:40.020
2	山地大介	香川順天堂大学	3:50.021
3	田中陽平	熊本千原台高校	3:50.112
4	長島大介	栃木作新学院高	4:01.916

U-17男子4kmタイムトライアル

1	倉野隆太郎	JPCA JPCU愛知	4:56.661
2	小豆畑郁也	福島日本大学	4:57.070
3	川西貴之	岐阜日本大学	4:57.632
4	角令央奈	兵庫鹿屋体育大	4:59.096
5	太田貴明	京都京都産業大	5:00.915
6	根本哲吏	秋田明治大学	5:00.918

U-17男子ポイントレース(30km)

1	角令央奈	兵庫鹿屋体育大学	33p
2	飯島誠	JPCAブリヂストンアカ	28p
3	盛一大	愛知愛三工業レーシング	19p
4	守澤太志	秋田明治大学	12p
5	松村光浩	和歌山マトリクス・パワーテック	5p
6	兼平純	岩手日本大学	-12p

女子200mフライングタイムトライアル

1	石井寛子	埼玉明治大学	12.314
2	沼部早紀子	栃木順天堂大学	12.736
3	佃咲江	北海道北海商科大学	13.073
4	岡希美	群馬法政大学	13.103
5	栗原瞳	埼玉順天堂大学	13.260
6	近藤美子	愛知愛工大名電高	13.484

女子500mタイムトライアル

1	岡希美	群馬法政大学	38.132
2	沼部早紀子	栃木順天堂大学	38.162
3	佃咲江	北海道北海商科大学	38.725
4	松本世良	鳥取倉吉東高校	39.105
5	栗原瞳	埼玉順天堂大学	39.253
6	石川菜々子	香川石川建築	39.384

ジュニア女子2kmタイムトライアル

1	柁原彩	熊本千原台高校	2:38.766
2	針谷千紗子	栃木作新学院高	2:49.160
3	星川恵利奈	香川笠田高校	3:00.956

U-17女子3kmタイムトライアル

1	和田見里美	鳥取中京大学	4:00.935
2	大塚沙織	大阪パナソニック	4:03.072
3	石井寛子	埼玉明治大学	4:13.757
4	井上玲美	東京法政大学	4:15.269
5	和地恵美	茨城金井小教員	4:18.630
6	村中恵美子	東京トヨタ	4:22.600

女子ポイントレース(20km)

1	和田見里美	鳥取中京大学	56p
2	石井寛子	埼玉明治大学	26p
3	井上玲美	東京法政大学	-27p
4	村中恵美子	東京トヨタ	-34p
5	針谷千紗子	栃木作新学院高校	-75p

JCF 事務局 人事異動

平成19年4月1日付

事務局長

久保田 茂 ← 手塚 哲式

UCI 国際ロード/トラック・コミセール養成コースのお知らせ

場所：タイ国バンコク

日程：2007年8月20日～27日

定員：20名、言語：英語、年齢：20～50歳

受講者は、知識のみならず十分な経験が要求されます。受講申請はJCFを通じてのみ受理されますが、JCFとしては最低限1級公認審判員であるか、1級受講資格を持つ2級公認審判員を競技運営委員会の審査を経てUCIに申請します。UCIコミセールの詳細についてはUCI規則1.1.053以下をご覧ください。受講希望のある場合は、所属の連盟を通じてJCF国際事業推進室までご連絡ください

JCF第1級公認審判員(トラック・ロード)

平成18年度第4回理事会(平成19年3月16日開催)で下記9名の方がトラック・ロード第1級公認審判員として承認されました。

勝見 洋一(北海道)・佐々木 博(秋田)・伊藤 勉(秋田)
藤原 盛一(埼玉)・奥原 進治(長野)・足立 利治(大阪)
向井 資晴(広島)・倉田 達樹(学連)・渡邊 知明(JPCA)

“アジア最高峰のトラックレースイベント”

ACCトラックアジアカップ 2007 日本ラウンド

ACC Track Asia Cup 2007

北京に挑むアジアの精鋭が集結

この大会はアジア版の「ワールドカップ」

ACCトラックアジアカップは、国際自転車競技連合 (UCI) が提唱する世界的なトラックレースの活性化策をふまえ、ACCトラック委員会が2003年に誕生させたもの。日本ではその年に東京都調布市の東京オーヴァル京王閣で開催されたが、今回はそれ以来となる国内開催となり、リニューアルされたばかりの いわき平競輪場がその戦いの舞台となる。



北京五輪の出場枠獲得に関わるから重要

北京オリンピックを翌年に控え、UCI カレンダーに登録されたこの大会はオリンピックの国別出場枠の獲得に関わる重要な大会と位置づけられる。開催する種目もオリンピックのトラックレースの種目を含む、男子8種目、女子6種目。好成績をおさめた国が北京に近づくことになる。

種目	スプリント	タイムトライアル	ケイリン	チームスプリント	個人追抜競走	ポイントレース	団体追抜競走	マディソン
男子	○	○	○	○	○	○	○	○
女子	○	○	○	○	○	○	-	-

※個人追抜競走：インディビジュアル・パーシュート、団体追抜競走：チーム・パーシュート

出場予定国および地域：中華人民共和国、ホンコン・チャイナ、日本、大韓民国、マレーシア、フィリピン、タイ、チャイニーズ・タイペイ

世界チャンピオンの黄金宝が来日

トラックレースのスクラッチ (今大会は開催せず) で世界チャンピオンとなったホンコン・チャイナの黄金宝 (ワン・カンポー) が参戦する予定だ。同選手は五輪でのメダルが期待できるアスリートとして香港市民ならだれもが知る存在だ。端正な顔立ちから「アジアンドラゴン」と呼ばれる男が北京五輪を翌年に控えた日本選手にとっては大きな壁となって立ちちはだかってくる。

【出場予定選手】※変更になることがあります。



伏見 俊昭
アテネ五輪<チームスプリント銀メダル>
(社)日本競輪選手会 福島支部



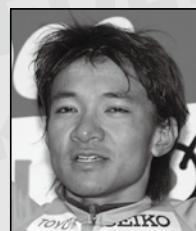
成田 和也
'06 アジア大会<チームスプリント金メダル>
(社)日本競輪選手会 福島支部



渡邊 一成
'06 アジア大会<チームスプリント金メダル>
(社)日本競輪選手会 福島支部



北津留 翼
'06 アジア大会<スプリント金メダル>
(社)日本競輪選手会 福岡支部



ワン カンポー
'07 UCIトラック世界選手権<スクラッチ金メダル>
ホンコン・チャイナ



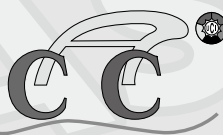
【最寄駅】

JR 常磐線いわき駅
競輪場までは徒歩 15 分

【自動車】

常磐道いわき中央 I.C より
車で約 10 分
駐車場=約 600 台 (無料)

【主催】



ASIAN
CYCLING
CONFEDERATION
TRACK COMMITTEE



入場無料

6月9日(土)・10日(日)
福島県いわき市・いわき平競輪場
<http://www.tairakeirin.com>

— JCF 維持会員のお願い —

本連盟は平成7年5月にプロ、アマ統合によりわが国における自転車競技界を代表する団体として発足して以来、自転車競技の普及・振興に係る諸事業を展開してまいりました。今後も自転車競技のさらなる発展を期し、国内大会の充実や国際大会の開催・派遣等活発な事業展開を図る所存であります。しかしながら、これらの事業活動には多額の経費を必要とするため、連盟事務局は経費節約に努める一方、自主財源の増額を図ることが必要となっております。

本連盟では、自主財源確保の一環として従来から維持会員制度に基づき会員各位のご支援を仰いで参りました。

つきましては、平成19年度におきましても、出費ご多端の折誠に恐縮とは存じますが、何卒かかる実情をご理解いただき、自転車競技の健全な普及・振興のためご支援を賜りますようお願い申し上げます。

維持会費（平成19年度分） ※ 詳しくはお手数ですが、JCF事務局総務部までお問い合わせください。TEL: 03-3582-3713

個人会員：年額10,000円を一口とし、一口以上。 団体会員：年額50,000円を一口とし、一口以上。

<平成18年団体会員>

財団法人日本サイクルスポーツセンター、日本プロフェッショナルサイクリスト協会、株式会社なるしまフレンド、日本写真判定株式会社、株式会社レキップ、有限会社ケイデザインカンパニー、シマダ記章株式会社、株式会社スポーツ・プランニング・ハウス、ダイワボウプログレス株式会社、株式会社ディプロマット、株式会社日刊プロスポーツ新聞社、株式会社NIPPOコーポレーション、社団法人日本競輪選手会徳島支部、日本道路株式会社、プリヂストンサイクル株式会社、株式会社マトリックス、有限会社メダリストプランニング

<平成18年個人会員>

穴田 勝彦、飯野 修二、猪狩 晋一、伊熊 牧治、石原 正和、岩井正二郎、岩城 光英、江崎 鶴彦、江原 敏郎、岡田 行雄、岡本 満男、岡本 雄作、奥田 悦司、音田 進、小野 盛秀、加藤 昭、亀田 博文、川崎 寿男、川手 一則、北尾 徹、國枝 一成、熊沢 元隆、権丈 泰巳、栗原 朗、小林 智昭、近藤 一夫、斉藤 高志、斉藤 博、佐久間重光、佐久間信司、佐藤 隆、柴野 邦彦、主濱 春蔵、白井 滋、杉原謙一郎、鈴木 明、鈴木 孝幸、妙中 義之、高野 晃、高橋 耕作、竹花 敏、多田 耕造、近成 保、中田 将次、中村 賢二、成田 昇、萩原 重一、平野 禎、古作 太一、星 進一、増田 亨、松倉 信裕、松田 隆司、松本 秀徳、松尾嘉之輔、宮本 敏夫、村井 武治、村田 統司、村田 隆宣、森 清一、山口 清孝、山田 義輝、大和 孝義、鷲田 紀夫、渡邊 淳

加盟団体事務局変更のお知らせ

青森県自転車競技連盟

〒031-0801 青森県八戸市江陽 1-2-27 八戸工業高校内 三上 様方
Tel: 0178-22-7348 Fax: 0178-43-2653

秋田県自転車競技連盟

〒019-1701 秋田県大仙市神宮寺字神宮寺 79 細谷孝二郎 様方
Tel & Fax: 0187-72-3315

兵庫県自転車競技連盟

〒652-0863 兵庫県神戸市兵庫区和田宮通 2-1-63 兵庫工業高校内 中野様方
Tel: 078-671-1431 Fax: 078-671-1435

広島県自転車競技連盟

〒731-0112 広島県広島市安佐南区東原 1-7-4 戸高 様方
Tel & Fax: 082-874-5086

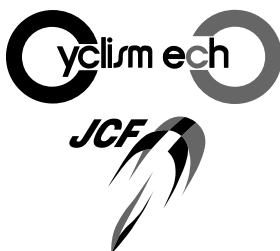
山口県自転車競技連盟

〒754-0897 山口県山口市嘉川 4188 棟久明博 様方
Tel & Fax: 083-989-2773

連盟の動き (3月下旬～4月下旬)

- | | | | |
|-------|-----------------|----------|-------------------------|
| 3月22日 | トラック世界選手権選手団出発① | 帰国→4/3 | 於：スペイン・マジョルカ島パルマ |
| 26日 | トラック世界選手権選手団出発② | 帰国→4/3 | 於：スペイン・マジョルカ島パルマ |
| 27日 | 平成18年度第2回評議員会 | | 於：東京・日本自転車会館イベントホール |
| 4月9日 | 平成19年度第1回理事会 | | 於：東京・日本自転車会館3号館4階 |
| | 平成19年度第1回強化委員会 | | 於：東京・日本自転車会館3号館3階 |
| | 第1回競技運営委員会 | 第1回広報委員会 | 於：東京・日本自転車会館3号館4階 |
| 16日 | 第1回アジアカップ実行委員会 | | 於：福島・いわき平競輪場 |
| 29日 | 平成19年度第2回強化委員会 | | 於：静岡・日本サイクルスポーツセンターサイテル |

JCF 協賛スポンサー



シクリスムエコー No.138 2007年4・5月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯 昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>